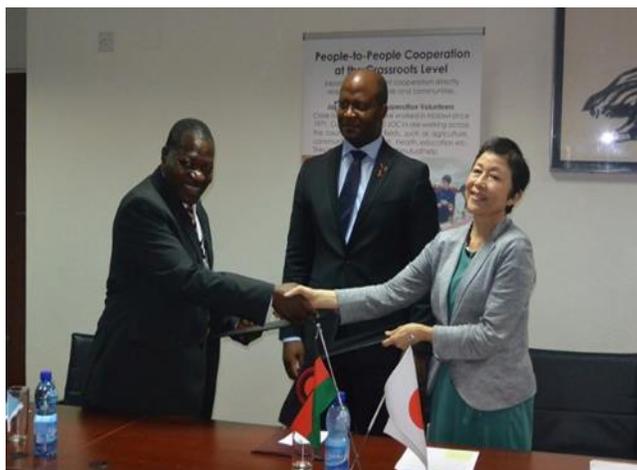


草の根・人間の安全保障無償資金協力

「リロングウェ県リクニ・ミッション病院麻酔器・滅菌器整備計画」

署名式

2018年3月7日



写真：柳沢大使（右），ムルジ保健・人口大臣（中央），ドドリ・リクニ・ミッション病院理事長（左）

2018年3月7日、柳沢香枝大使とドドリ・リクニ・ミッション病院理事長は、「リロングウェ県リクニ・ミッション病院麻酔器・滅菌器整備計画」に関する、草の根・人間の安全保障無償資金協力贈与契約を締結しました。本贈与契約署名式は在マラウイ日本国大使館で行われ、ムルジ保健・人口大臣が臨席されました。

マラウイ政府は、HIV/AIDS、マラリア、結核の撲滅や医療アクセスの向上へ尽力しており、日本政府も主要パートナーとして、世界エイズ・結核・マラリア対策基金（グローバルファンド）へ資金拠出を行っています。マラウイ国は未だに医療施設や医療機器の不足など様々な課題を抱えています。他の病院同様、リクニ・ミッション病院も医療機器不足に直面しており、効果的な保健・医療サービスの提供に影響を与えています。手術室は2室あるにも関わらず、麻酔器が1台しかないため、1室のみしか使用されていません。一方、40-50年前に導入された滅菌器は、病院の自助努力によって比較的良い状態で使用されてきました。これらの状況を鑑み、日本政府は、草の根・人間の安全保障無償資金協力を通して、リクニ・ミッション病院が滅菌器及び麻酔器を整備するための資金として同病院に40,000米ドルを供与することを決定しました。

式典で柳沢大使は、本事業の実施により、リクニ・ミッション病院が質の高い医療を適切なタイミングで提供できるようになるであろうと期待を示しました。また、同病院に対し、迅速に医療機器を整備することで、より多くの患者に裨益するよう努めてほしいと強調しました。